

Vol.101

伊那市議会事務局  
TEL 02665-9668149  
FAX 02665-769117  
E-mail gkji@inacity.jp

議会だより



伊那市議会3月定例会では39議案と請願・陳情5件、委員会提出議案2件、議員提出議案2件が提案され審議を行いました。今定例会に上程された主な議案を紹介します。

- ◆全会一致で可決等された議案
- ◆専決処分の承認を求めることについて
- 令和2年度伊那市一般会計第11回補正予算
- (新型コロナウイルス感染症関連)
- (二般案件)
- ◆請負契約の変更
- ◆辺地に係る総合整備計画の変更
- (上新山地区の辺地の総合整備計画変更)
- 等、合計6議案
- (条例案件)
- ◆伊那市組織条例の一部を改正する条例
- (企画部の権限及び男女共同参画を文化スポーツ部に改編)
- ◆伊那市介護予防施設条例の一部を改正する条例

(渡場いきいき交流施設を渡場区へ譲与)  
等、合計12議案

- (人事案件)
- ◆人権擁護委員候補者の推薦
- (予算案件)
- 令和2年度補正予算
- ◆一般会計(1議案)
- ◆特別会計(5議案)
- ◆企業会計(3議案)
- (決算に近づけるための補正)
- 令和3年度当初予算
- ◆一般会計
- ◆特別会計(6議案)
- ◆企業会計(3議案)
- (委員会提出議案)
- ◆伊那市議会委員会条例の一部を改正する条例
- ◆伊那市議会会議規則の一部を改正する規則
- (議員提出議案)
- ◆新型コロナウイルス感染症に伴う支援策に関する決議について
- 賛成なし(不採択)(請願・陳情)
- ◆横断歩道等での交通事故防止に関する陳情

賛否の分かれた議案等(審議結果と各議員の賛否一覧) 【議案】議案に賛成…○ 反対…× 【請願・陳情】委員会結果に賛成…○ 反対…×  
なお、原則として議長は採決に加わりません。

区分	件名	委員会結果	池上直彦	小林眞由美	田畑正敏	馬場毅	原一馬	松澤嘉	三澤俊明	宮原英幸	白鳥敏明	二瓶裕史	野口輝雄	唐澤千明	唐澤稔	宮島良夫	飯島光豊	黒河内浩	柴満喜夫	前田久子	柳川広美	飯島尚幸	飯島進(議長)	本会議結果
請願・陳情	◆国会両院の審議において事実と異なる答弁の根拠を求める陳情(陳情)	不採択	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	不採択
	◆国会両院の審議において事実と異なる答弁の根拠を求める陳情(陳情)	不採択	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	○	不採択
	◆最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める陳情(陳情)	趣旨採択	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	趣旨採択
	◆「日本政府に核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書」の提出に関する陳情(陳情)	採択	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	採択
議員提出議案	◆日本政府に核兵器禁止条約への参加・調印・批准を求める意見書の提出について	付託省略	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	○	○	○	×	○	×	○	×	可決	

# 3月定例市議会

## 一般質問から

伊那市議会3月定例会の一般質問は、3月9日、10日、11日の3日間にわたって行われ、18人の議員が質問に立ちました。質問と答弁の主な内容をお知らせします。

三澤俊明



**コロナ禍において弱体化が懸念される消防団をいかに支援するかについて**

**問** 三澤俊明議員 コロナ禍において満足な訓練もできずに厳しい運営を余儀なくされる消防団に一言。

**答** 市長 消防団は伊那市にとって大変重要な組織、市として団員の安全を確保しながら十分な活動ができるようしっかりと支えていきたい。

**問** 三澤俊明議員 本年度のポンプ操法大会の開催は消防団側とどのように協議されているか。

**答** 市長 団員が集まって十分な訓練ができる状況に無いこと、また上伊那のポンプ操法大会も中止が決定していることを受けて伊那市も中止せざるを得ない。

**問** 三澤俊明議員 来年度からのポンプ操法大会は、どのように考えているか。

**答** 市長 現在、実際の災害や火災に対応できるように訓練と令和4年度以降のポンプ操法大会の実施方法について検討している。

**問** 三澤俊明議員 今後、消防団に望む新たな訓練は。

**答** 市長 ドローンを使った行方不明者の捜索、チェーンソーの扱いなど実践的な訓練。

**問** 三澤俊明議員 飲食店を中心とした団員サポート店の利用状況は。

**答** 危機管理監 今年度についてはコロナ禍で利用は少なかつたものの、テイクアウトで利用する分団は見受けられた。団員の優遇措置の観点からも今後ともサポート店は増やしていきたい。

唐澤千明



**生活に困っている子どもへの支援について**

**問** 唐澤千明議員 子どもの貧困対策計画策定への伊那市の取組み状況は。運営に苦労していることも食堂への支援が必要と思われるが。

**答** 市長 来年度策定する子どもの貧困対策推進計画に、こども食堂への支援の方法・方向性を検討する。保健福祉部長 第2期子ども・子育て支援事業計画に、子どもの貧困対策を一つの項目として載せてある。今年度は二

次調査を行い2021年度中に子どもの貧困対策推進計画を策定する予定。

**伊那市の人口推移から考えることについて**

**問** 唐澤千明議員 今後更に人口減少のスピードを緩める施策・取組みを。産業用地を購入した企業に、市で優良宅地を分譲することを提案するが。

**答** 市長 東京一極集中の動きは止まっていないが、新型コロナウイルスの影響で地方帰郷、田舎帰郷の関心が高まっている。第2次総合計画、第2期地方創生総合戦略に基づいて様々な事業を実施していく。自然増減は、亡くなる方のほうが多いのでマイナスになるが、社会増減については、入ってくる方のほうが多い年もあり、企業誘致や移住・定住の施策が数字に表れていると思う。若宮、大萱団地等空き地が生まれる。市で保有している土地を上手に活用して住宅建設の案内をしたい。

白鳥敏明



**新型コロナウイルス感染症対策の現状と今後の対応策について**

**問** 白鳥敏明議員 スクールサポートスタッフの令和3年度の継続配置計画は。

**答** 教育次長 来年度の県費での配置は、9校と聞いている。各学校は来年度の配置も希望しており、追加配置について県の動向を注視したい。

**問** 白鳥敏明議員 保育園にも感染症予防対策のサポートスタッフの配置を。

**答** 市長 消毒作業は増加しているが、コロナの影響で今年度はイベント中止や規模縮小で、全体の業務量は減少し、負担増にはなっていないと見ていない。現状は配置が必要な状況ではない。

**問** 白鳥敏明議員 感染症対応の分担医療や災害時救急医療の体制整備の状況は。

**答** 市長 感染症対応の医療体制は、県が主体で取り

組んでいる。災害時の救急医療体制は、上伊那医師会と郡内市町村で災害時医療救護協定を締結して対応している。

地域公共交通の現状と今後の対応について

**問** 白鳥敏明議員 市街地循環バス内回り便を、中央病院経由に変更の考えは、

**答** 市長 中央病院への乗り入れは4路線あり、現状内回り便の路線変更の考えはない。

**問** 白鳥敏明議員 市街地居住者の「ぐるっとタクシー」利用可能の検討を。

**答** 市長 運行エリア拡大後に利用対象区域・利用対象者、運行時間等の検討をするが、事業者と協議し慎重に進める必要がある。



自治会、町内会について

**問** 唐澤稔議員 自治会、町内会の未加入や役員引き

受け手の減少で地域コミュニティの維持が難しいが。

**答** 市長 加入促進のためのパンフレットを作成し、市民課窓口で転入者に配布し、自治会への加入を呼び掛けている。

また、地域の教科書を作成し、地域の魅力を紹介しながら自治会の様子、行事、負担すべき区費などの情報を事前に提供し、入区後のトラブル防止に役立てている。自治会への加入は法的に強制できないが、自治組織の必要性について啓発し、加入促進に取り組んでいきたい。

**問** 唐澤稔議員 民生委員については。

**答** 市長 民生委員の選考では、候補者を探しにくいと聞いている。任務の重さと任期の長さ、行事の出席など負担が大きいとの認識が定着している。改善する事項を具体化し、引き受け手があまり負担を感じず、安心してパトロンタッチができる環境を整えたい。

SDGs(エスディージーズ)の取組みについて

**問** 唐澤稔議員 SDGs(エスディージーズ)の取組み

について。

**答** 市長 第2次総合計画にSDGsを時代の潮流として位置付けるとともに、環境基本計画においてはSDGsの考えを積極的に取り込んで策定している。社会分野での貧困対策を含む子ども子育て支援や男性職員の育児休暇、環境分野での食品ロスを減らす取組みなどが、評価の対象になっている。全国調査では高い評価をいただいたので、さらに取組みを進めていきたい。

飯島光豊



コロナ禍、ためらわずに生活保護制度を活用していただくために

**問** 飯島光豊議員 市の生活保護率は県下19市で最下位。保護申請をためらわせる親族への扶養照会の実情は。親族への扶養照会は義務か。申請者の承諾なく扶養調査するか。扶養照会で申請者に援助が得られるか。親族の扶養照

会への回答は義務か。交通困難地域に住む生活保護者の車やバイク保有は。自営業者は店舗・機械・器具・車を処分せずに保護されるか。厚労省HPの生活保護制度の周知を。

答

市長 扶養の履行が期待できない場合は、照会することが適当でない場合は、照会をしていない。扶養照会の回答がなくても保護は受けられる。資産価値のない自動車や125cc以下のバイクの保有を認める場合がある。最低限度の生活の維持に必要な店舗・機械・器具の保有を認める場合がある。厚労省のHPを市のHPに再掲し、保護のしおりは再編集する。保健福祉部長 扶養照会は義務ではない。国の定める実施要領に基づき行っている。保護申請者の承諾なく調査はしない。金銭的援助は、ほとんど得られないが精神的支援を得られる場合がある。

コロナ禍から市民のいのちと健康、医療機関を守るために

**問** 飯島光豊議員 国保基金の積み増しで国保税値上げの回避を。菅内閣の高

答

市長 基金積立てで市民負担を軽減予定。全国市長会で政府に提言している。

野口輝雄



低炭素社会に向けての今後の施策についての提案

**問** 野口輝雄議員 伊那市が目指す低炭素社会に向けて伊那市として気候非常事態宣言の発出が必要ではないか。家庭向けの太陽光発電設備導入の補助金や共同購入システムの導入が必要ではないか。電気自動車購入時の補助金の創設の考えは。

**答** 市長 早い時期から低炭素社会に向けて具体的に実行してきた。県の宣言に賛同しており、実効性のある行動を取りたい。フィット制度が終了したら検討したい。共同購入については今後の県の制度を注視したい。国の補助制度の上限が引き上げられたので、この補助制度の活用を市民にPRしていきたい。

**伊那市のリモート学習実施の現状と今後の対策について**

**問** 野口輝雄議員 伊那市のリモート学習についてハード面とソフト面の準備状況は。地域おこし協力隊員の教員への協力体制について。

**答** 市長 一度の臨時休業は多くても8クラス程度と考えている。現状のハード、ソフトのシステムで対応できる。ICT活用教育推進センターやICTに関わる地域おこし協力隊員の協力で活用できるシステムの構築を進めてきた。



宮原 英幸

**総合支所建て替えについて**

**問** 宮原英幸議員 建設予定地が文化センターの敷地内となっているが、その意味は。

**答** 市長 駐車場もできるだけ確保、現敷地全体として考えたい。

**問** 宮原英幸議員 進入路についてはどうか。

**答** 市長 両側に民家があるが拡幅の可能性を検討したい。

**問** 宮原英幸議員 今後の本庁と総合支所との役割分担はどう考えるのか。

**答** 市長 市全体のスリム化を考慮した上で支所の機能を整理し、住民サービス低下とならぬよう取り組む。

**問** 宮原英幸議員 財源で予定している高遠町振興基金はどうなるのか。

**答** 市長 同基金の全額取り崩しは考えていない。

**問** 宮原英幸議員 旧J A高遠支所に伊那市商工会事務所とともに観光拠点を整備する予定だが、課題となる仲町駐車場の利用はあるのか。

**答** 市長 今後についても、引き続き活用をしていきたい。

**流域治水における諸施策について**

**問** 宮原英幸議員 昨年組織された天竜川上流域域治水協議会に係る取組みは。

**答** 市長 庁内関係部署の検討により建設課で取り

**問** 宮原英幸議員 伊那市で検討している特徴的な具体策は。

**答** 市長 今月の協議会でプロジェクトがまとまり、来年度以降具体化していく。森林や水田を天然貯留施設とする取り組みなどを進める。



二瓶 裕史

**18歳選挙権実現から5年、「これまで」と「これから」**

**問** 二瓶裕史議員 小中学校における主権者教育が重要となるが、どう考えるか。

**答** 市長 女性の政治への参加についての取組みは、「投票済証明書」の発行を再度提案する。投票率向上だけでなく、飲食店等での「選挙割」実施により、飲食店等の支援につながるのでは。

**問** 市長 あらゆる分野での女性の活躍を基本施策に位置付けているが、登用数など目標には遠く及んでいない。女性が活躍できるよう環境整備を

進めていきたい。

教育長 小中学生にとって当事者としての意識が育まれることは大切である。児童会や生徒会の選挙や日々の活動など自治的な取り組みへの参加も意味が大きい。

選挙管理委員長 4月の参議院補欠選挙から「投票お疲れさまでした」と記載した用紙を希望者に配布する。飲食店等が選挙割を実施することは市民の政治や選挙に対する関心を高めるきっかけになる。

**いな・ほと券第3弾の発行を**

**問** 二瓶裕史議員 新型コロナ収束後こそ、プレミアム商品券の効果は大きい。第3弾発行の考えは。

**答** 市長 市内経済を活性化させる手段として大きな効果がある。コロナの収束状況を見極めた上で必要であれば検討したい。

松澤 嘉



**新型コロナウイルス ワクチン接種対応について**

**問** 松澤嘉議員 ワクチン接種スケジュールについて

**答** 市長 高齢者向けの接種券の発送は4月下旬から、接種は5月上旬から。それ以外の人については現時点見通しがたっていない。

**問** 松澤嘉議員 接種の方法は。

**答** 市長 個別接種と集団接種の併用。市内30の医療機関。集団接種はロジテックアリーナの1か所。

**問** 松澤嘉議員 副反応に対する備えは。

**答** 市長 アナフィラキシーに対する備えは集団接種会場では必要な医薬品を用意。万が一の時は救急車による搬送。心配がある人は、接種前にかかりつけ医や予診の際に相談いただく。

**問** 松澤嘉議員 予約をコールセンター一括管理とし

た理由は。

**答** 市長 ワクチン接種をす  
るにあたり医師会と相談  
し、医療機関への予約電話の殺到  
による支障を防ぐため、市で一括  
受付をする。

**問** 松澤嘉議員 住民票所  
在地以外での接種の考  
えは。

**答** 市長 原則として住民票  
所在地での接種。例外的  
に住所外で受けられる場合も  
あるが、詳しくは市へ問合せを。

**問** 松澤嘉議員 事業所等  
での集団接種は。

**答** 市長 医師会との相談  
になるが可否を検討して  
いる。

**東日本大震災10年、  
本年の市の防災対応について**

**問** 松澤嘉議員 本年の市の  
防災訓練内容は。

**答** 危機管理監 本年6月  
の高遠町での総合防災  
訓練は土砂災害訓練。その他  
の区・町では例年どおり地区ごと  
で計画し実施する。

原  
一馬



**伊那市の水路管理の  
考え方と竜東地区の  
雨水排水の対策について**

**問** 原一馬議員 宅地化が進  
んできた竜東地区の雨水  
排水の対策についての考えは。

**答** 市長 市街地であるが、河  
川・排水路が少ない。防災・  
災害などの事業債の活用を検討す  
る。内水対策としては、市内の溢水  
浸水被害箇所排水路整備など  
できることから検討したい。

建設部長 延長された国土強  
靱化5か年計画によりできるか  
検討したい。

**コロナの影響を払拭する  
伊那市の発信について**

**問** 原一馬議員 都市部の緊  
急事態宣言により、感染  
者が出ていない地域も同じよう  
に自粛して社会経済活動が停滞  
している。萎縮した(沈滞)ムー  
ドを払拭する伊那市の発信また  
は宣言を。

**答** 市長 感染状況の推移が  
不透明な中で安全宣言は  
難しいが、春の高校駅伝、高遠城  
址公園さくら祭りも行う。沈滞  
ムードを払拭する一つの強いメッ  
セージになる。

**答** 市長 働き方、教育、産業  
など変化している。社会が  
変わったことを認識し、アフター  
コロナの社会構造を想定しながら  
対応する。新しい価値観を生み  
出していくことが重要と思う。

**問** 原一馬議員 アフターコロ  
ナに向けて伊那市の取組  
みは。

**答** 市長 働き方、教育、産業  
など変化している。社会が  
変わったことを認識し、アフター  
コロナの社会構造を想定しながら  
対応する。新しい価値観を生み  
出していくことが重要と思う。

**問** 小林眞由美議員 女性  
の地域・地区活動への関わ  
りと防災・減災活動で実際に活  
動する女性の人数と割合は。



**男女共同参画の視点に立つた  
防災体制づくりについて**

**問** 小林眞由美議員 女性  
の地域・地区活動への関わ  
りと防災・減災活動で実際に活  
動する女性の人数と割合は。

**答** 市長 持続可能な社会  
づくりや、防災・減災体制  
の構築には女性の視点での考え

は重要。

危機管理監 消防団23人2.  
7%、日赤奉仕団299人98.  
7%、長野県自主防災アドバイ  
ザー9人20.5%。防災講座参  
加率は42.15%と防災意識は高  
い。

**問** 小林眞由美議員 地域  
で女性が自然に能力発揮  
でき、活躍する場づくりを。

**答** 市長 来年度以降策定  
予定の第4次男女共同参  
画計画の中に女性の地区役員へ  
の登用、地域防災への関わり・活  
躍を位置づけたい。

**問** 小林眞由美議員 伊那  
市地域防災コーディネー  
ター、防災士、長野県自主防災  
アドバイザーの地域防災体制づ  
くりでの活動のあり方は。

**答** 市長 今後、防災知識を  
習得した方として紹介す  
るプラットフォームの構築を考え  
ている。自主防災組織に周知し、  
活躍の場としていきたい。

**問** 小林眞由美議員 伊那  
市防災会議の委員構成  
は。

**答** 市長 廃園に伴う地域の  
衰退を危惧する中で、「伊  
那西地区を考える会」が発足し  
ている。伊那西地区では、田舎暮  
らしモデル地域の認定に向けた  
取組みが行われており、現在の状  
況を踏まえ、地域の活動、子育て  
世帯、児童数の推移に目を向け  
ながら地域の声を聞き、将来に向  
けた方向を判断していく。

**答** 市長 平成30年度は36  
人中女性4名11.1%、今  
年度は各機関に男女共同参画の  
観点を入れている委員の選出を依  
頼している。誰もが意見が出し  
やすく、対話でき計画実施に取  
り入れられる状況になることが  
重要だと思う。

**問** 宮島良夫議員 伊那西  
部保育園は2012年か  
ら閉園になっている。議会では存  
続することとしているが市長の  
考えは。



**伊那西部保育園の  
存続について**

**問** 宮島良夫議員 伊那西  
部保育園は2012年か  
ら閉園になっている。議会では存  
続することとしているが市長の  
考えは。

**答** 市長 廃園に伴う地域の  
衰退を危惧する中で、「伊  
那西地区を考える会」が発足し  
ている。伊那西地区では、田舎暮  
らしモデル地域の認定に向けた  
取組みが行われており、現在の状  
況を踏まえ、地域の活動、子育て  
世帯、児童数の推移に目を向け  
ながら地域の声を聞き、将来に向  
けた方向を判断していく。

## 伊那市の人口増対策について

**問** 宮島良夫議員 人口減少が進む中、伊那市は農振除外が難しく家が建てにくいので他の市町村に建ててしまおうが対策は。

**答** 農林部長 今年度から農振除外の受付方法を変更して、県との協議回数を増やし、受付から除外までの期間が約9か月と短くなっている。

## 安心して子供を産み育てるために

**問** 宮島良夫議員 少子化対策として、伊那市の産後の母親に対する支援の実態は。

**答** 市長 これまでも不妊治療や産後ケア事業の充実など様々な施策を行ってきた。来年度予算には乳児のおむつ用品の助成事業を盛り込んだ。経済的負担への援助のほか、精神面でも安心して育児ができる要素になる。こうした取組みをこつこつと増やしながらか支援を行っていききたい。

## 飯島尚幸



## 各地区の財産区の運用について

**問** 飯島尚幸議員 伊那市には9つの財産区が構成されており、令和4年7月に議会議員選挙を迎える。公職選挙法の改正により立候補者には供託金15万円が必要となる。このことは立候補への道を開く上で、地域性や成り手問題など困難なハードルがたくさんある。打開策への見解は。

**答** 市長 財産区議員選挙にそのものがこれで良いのかと、正直思う。地元区で用意準備するなど法的な課題が多い。庁内の関係者会議を立ち上げ、円滑な方法を見出すべく検討していく。

## 道路運行の安全・管理について

**問** 飯島尚幸議員 道路陥没を未然に防ぐための路面下空洞調査は、過去2回実施し成果がある。今後計画的に行うべき。

**答** 市長 舗装の長寿命化を進める中で、緊急輸送路や主要幹線道路の点検調査の状況に応じ技術を生かした路面下空洞調査も活用してまいりたい。

**問** 飯島尚幸議員 公用車の安全運行のため、ドライブレコーダーの設置を急ぐべき。

**答** 総務部長 走行距離数の比較的少ない30台について、令和2年度から3か年計画で設置を進めていく。

## 馬場 毅



## コロナ支援対策の充実のために

**問** 馬場毅議員 店舗の建設や改修のために借り入れをして商売をしている事業者は家賃補助を受けられない。金融機関等への返済も毎月かかる固定費であり、伊那市として支援することはできないか。

**答** 市長 コロナ対応の融資に切り替えることでの利子補給、返済の据え置き期間延長の支援を状況に応じて活用してもらいたい。

## 県に支援を求める

**問** 馬場毅議員 昨年11月のコロナ発生で大きな影響を受けた飲食店に対して、市では独自の支援を行っているが、県に対しても支援を求めるべきではないか。

**答** 市長 知事との意見交換の際、市内業者の実情を伝えて、必要箇所へ必要な支援が届くように要望しており、今後もしっかりと要望していく。

## コロナの時代でも市民の活動を後押しする公共施設を

**問** 馬場毅議員 コロナ禍では、公共施設を使ったオンラインでの会議や学習会が頻繁に行われるようになった。現在、特定のWi-Fiしか繋がらない施設もあるが、今後の整備計画は。

**答** 企画部長 昨年度11か所の整備をし、市設置の無料Wi-Fiは現在22か所。施設の規模、利用者数等を踏まえ計画的に整備していく。

## 柴満喜夫



## 新産業フェス開催について

**問** 柴満喜夫議員 5月に行う「新産業フェス」はどんなイベントか。

**答** 市長 これまで伊那市が構築してきたドローン物流やモバイルクリニックなどのソリューションのデモンストレーションを行う。市民自ら体感し、伊那市の将来像を考える機会にしよう。

## モバイルクリニック 実証事業について

**問** 柴満喜夫議員 モバイルクリニック事業のこれまでの成果、今後の取組みは。

**答** 市長 市内医療機関が参加し、これまで約80件のオンライン診療が行われている。薬局は対面が基本だったが、昨年9月の法改正により電子媒体も可能となり先日からオンライン服薬指導も始まった。薬の引き渡しも第三者でも可能になった。診療報酬が非常に低く、もっと引き上げるべきだと国会議員や厚労省に要請している。

## 行政手続き、押印廃止について

**問** 柴満喜夫議員 伊那市において、押印廃止の現状と、今後、押印廃止の取組みは。

**答** 市長 押印は申請書の本人確認や関係者の意思確認等を行うためにお願ひしている。調査の結果、市の規定により押印を求めている手続き数は700件となっている。見直しに当たっては、認印によるものは原則として廃止するなど、統一的な判断基準を設けるとともに、電子申請を見据えて、自署による署名についても積極的な見直しを進めている。



田畑正敏



**市道桜井殿島線「一夜の城」付近の道路拡幅工事について**

**問** 田畑正敏議員 桜井殿島線「一夜の城」で拡幅工事が着手できない理由はなにか。

**答** 市長 長野県遺跡指導委員会から、道路拡幅は認められない。現状保存をすることに加え、一夜の城帯の調査を行うようにとの指導が出されたため工事実施を見送った。

**問** 田畑正敏議員 今後、拡幅工事が実施できる可能性はあるか。

**答** 教育長 県考古学会の要望や県教育委員会の意見、また市の行った発掘調査の結果から文化財保護上貴重な資料として現状のまま残すことが望ましいとの結論。従って土壁に影響ある箇所についての工事実施は困難であると考えます。

**コロナ禍での農家民泊事業者支援策について**

**問** 田畑正敏議員 昨年5月に1事業者当たり3万円補助を行っているが、もう一段の支援ができないか。

**答** 市長 金銭的な支援だけではなくアフターコロナに向けた様々な支援を行っていく。

**問** 田畑正敏議員 農家民泊同士の情報交換や悩みごとの解消に向けた取組みが気軽にできる農家民泊事業者主導による体制作りを提案するが。

**答** 市長 農家民泊が主体的に関わる伊那民泊協議会(仮称)の設立に向け準備委員会を発足させ、5月の設立を目指している。

柳川広美



**新型コロナワクチン接種と感染予防について**

**問** 柳川広美議員 デイサーピスや訪問介護・訪問リハの職員も優先接種すべき。

**答** 市長 感染拡大に対応する居宅サーピス事業所の職員は、高齢者の次に優先対象となる。

**小中学校における30人学級について**

**問** 柳川広美議員 市独自に30人学級の実施を。

**答** 教育長 市は独自に15人の教員を採用して手厚い教育をしている。

**工業用地取得の考え方について**

**問** 柳川広美議員 現在保有している土地で買いたいという申し込みが無い土地は、どこで何、mか。

**答** 市長 保有用地は約10万2千mだが、申込が無いのは伊那インター工業団地E1区画のみで5897mである。

**今後の水道料金・下水道使用料の見直しについて**

**問** 柳川広美議員 老朽管の敷設替えについてふるさと基金等を使い更新を。

**答** 水道部長 基幹管路のうち34kmが耐用年数を過ぎていて。国の有利な財源を検討しながら更新していく。



前田 久子

**学び直しによる人材育成と雇用対策について**

**問** 前田久子議員 コロナ禍で転職を余儀なくされる方のための支援策はあるか。

**答** 市長 ICT人材育成、確保事業では新産業技術を活用するため中小企業の若手社員の育成に取り組んでいる。また、学生と企業の共同研究を進め、地元で働く若者の割合を高めている。スマート農業、精密工業、農福連携による伊那市産業コラボプロジェクトでは、儲かる農業を目標にアスハラ、ネギ栽培の機械化、障害者の雇用による農

**【お知らせ】**

請願・陳情  
次回6月定例会審査の受理期限は、5月27日正午です。(期限は、変更となる場合もあります。議会事務局へご確認の上ご提出ください。)

\*「QRコード」は(株)デンソーウェアの登録商標です。

業の労働力不足の解消を目指している。また、農福連携による麦ストローの製品化では、材料に適した麦の栽培を信州大学と協力して実施していく。新規就業者確保事業では、フォレストカレッジを開校し、250名が応募の中50名を対象に講座を開いた。森に関わる百の仕事を作るをキーワードに人材育成・確保、移住定住、地域材ブランド品作成、労働力確保を目指していく。仕事と子育ての両立を支援する拠点施設を元富県南部保育園跡地に建設し、女性活躍型のオフィスとして子育て中の方や、移住者の就業を促進する。女性が特定の技術を学び活躍するため、スキルアップ、キャリアアップの機能を持たせていきたい。

# 伊那市議会 令和2年度の政務活動費の報告をします

政務活動費は、地方自治法の規定に基づき、議員の調査研究その他の活動に資するために必要な経費の一部として、議会の会派に対して交付されるもので、伊那市では条例に基づき、会派の所属議員数に年額12万円を乗じた金額が交付されます。

各会派では、政務活動費の収支の結果を議長に報告し、残金がある場合は市に返還します。

収支報告書と領収書は、議会事務局(市役所2階)で閲覧していただけます。

(単位:円)

会派	人数	活動費総額 (12万円×人数)	概算(見込み)支出額の内訳		残金(返還額)
			広報費	備品購入費(書籍等)	
平成クラブ	7人	840,000		19,580	820,420
令和クラブ	4人	480,000		58,200	421,800
日本共産党 伊那市議団	3人	360,000	360,000		0
新風会	3人	360,000		37,269	322,731
公明党	2人	240,000			240,000
新政クラブ	2人	0			0

※新政クラブについては、令和2年度は政務活動費の申請はありませんでした。※内訳については、使用された項目を掲載しました。



総務文教委員会



社会委員会



経済建設委員会



議場

伊那市議会では「新型コロナウイルス感染症に伴う支援策に関する決議」を市長に提出するとともに、コロナ禍で続く「新たな生活」について市民の皆様メッセージを公表しました。

伊那市民の皆様へ

## 新型コロナウイルス感染症対策に関するメッセージ

はじめに、新型コロナウイルス感染症により病気と闘われている皆様にお見舞いを申し上げますと共に、一日も早い回復をお祈り申し上げます。

さらに医療関係従事者の皆様におかれましては、感染拡大の恐怖の中、その責任を全うするため、まさに命がけで任にあたられていることに心より敬意とまた感謝を申し上げたいと思います。

昨年4月7日に7都府県を対象に緊急事態宣言が発令され、同月16日に全国に拡大されました。

一旦は落ち着きを見せていた新型コロナウイルス感染症でしたが、その後第2波そして第3波と感染拡大に歯止めはかからず、令和3年の年が明けました。

菅義偉首相は、新年早々に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言の対象地域を4都県に再発令し、その一週間後の1月13日には、7府県を追加し計11都府県へと拡大を余儀なくされました。

全国に感染者が拡大する状況下、伊那市では市長を先頭に伊那市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し対応し、伊那市議会としても市と一体となって、感染拡大防止と有事の際の事業の継続に努めるため、伊那市議会BCP(業務継続計画)を含め対応策を検討してきているところであります。今後も議会として、市長部局との情報交換を密にし、状況に応じて速やかに対策会議を開催し必要施策を提案してまいります。

なお、外出が規制されることや、議員の中に感染者が出るなどの不測の事態が生じた場合でも議会活動が遅滞なく進められるよう、ICT技術を活用したオンライン委員会を開催できるように条例等を整備して速やかに必要施策の提案を行い、意思決定ができるよう図ってまいります。

以上、伊那市議会の新型コロナウイルス感染症対策対応についてご報告させていただきました。これからも伊那市議会は市民の代表議事機関として、市民の皆様の生命・財産を守るために議会一丸となって取り組んでまいります。

ご意見・ご要望などございましたらお近くの市議会議員もしくは議会事務局までご遠慮なくお申し付けください。

例年であれば進学・就職・転勤や歓送迎会などで人の移動、会食の機会が増す年度替わりの時期を迎えますが、市民の皆様におかれましては引き続き「緊急事態宣言が発出されている地域(特定都道府県)との往来を控える」、「三密の回避」、「手洗い、消毒、マスクの着用」に加え、フェイクニュースなどに惑わされないよう落ち着いて、冷静に行動し、この難局を乗り越えていきましょう。

特に高齢者の皆様、お子様には大きな身体的、精神的御負担をお掛けしますが、まずは「命を守るための大切な措置」としてご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

また、事業者の皆様におかれましては、厳しい経済情勢ではありますが、様々な支援施策が国・県・市から出されています。是非、最寄りの関係機関にご相談いただき、事業継続へのご尽力のほどお願い申し上げます。

最後に新型コロナウイルスのワクチン接種などにより、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を心から願い、伊那市議会からのメッセージとさせていただきます。

令和3年3月19日 伊那市議会